

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 21 年度

事業所番号	2770105860		
法人名	社会福祉法人宝生会		
事業所名	あいする久世グループホーム		
所在地	大阪府堺市中区東八田387-1		
自己評価作成日	平成 22年 1月 11日	評価結果市町村受理日	平成 22年 4月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2770105860&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2770105860&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 2月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>住む・生活するという考え、地域への浸透、食事に力を入れています。入所ではなく、ここがお家だと自らが思っていただけのような環境作りや対応、地域行事への積極的な参加、季節の食材や行事食、郷土料理等を全食手作りで提供する事での食べる楽しみと口腔摂取の維持。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>施設入所という考えをできるだけ緩和するため、近隣の住宅との調和を試み、2階建ての住宅的なグループホームです。「住む」「生活する」という考えを大切にしています。理事長の地元ということで地域の理解もあり、地域の中に溶けこんでいます。職員が安心して仕事できる体制作りにも工夫し、職員はすべて正規職員採用で、3ユニット3人夜勤体制になっています。「利用者・職員とも、笑っているのがホームの自慢です」という職員の声に、日々のケアの質の高さが伺えます。</p>
---

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「日々楽しく自分らしく、ふれあいを大切に心やすらぐ場所に」を理念とし、全体会議等で伝達する事により、周知に努めている。	「日々楽しく自分らしく、ふれあいを大切に心やすらぐ場所に」を理念とし、「生活すること」を基本的な意識にしています。理念は職員の見えるところに貼り、日々振り返りをしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りやだんじり等の地域の行事に積極的に参加する事により、地域住民との交流に努めている。	理事長や管理者の地元ということもあり、地域との関係はよく保たれています。利用者に楽しんでもらおうと、グループホームの廊下から見える自分の庭に花を植えてくれる方や、野菜の差し入れをしてくれる方など、利用者の生活が地域に溶け込んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	日課である施設周辺の散歩の際に、近隣住民への挨拶を通じた日常的な交流を心掛ける事により、理解に努めている。又、2ヶ月に一度の運営推進会議を開催する事により、事業所を含め、一層の理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現場スタッフは現状、運営推進会議には参加していないが、結果等、後日報告を受け、現場スタッフに伝達しており、何かあれば活かすようにしている。	運営推進会議は、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族等が集まり、2ヶ月に1回開催しています。内容は、行事や運営状況、事故報告、ホームの居室空き状況の報告など行い、事業所の理解を深めてもらっています。地域からしてもらうことだけではなく、今後はグループホームからできることを働きかけていきます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一度の運営推進会議を開催する事により、理解と関係作りに取り組んでいる。	区の担当者との連携を図っています。困難事例等が出た際は、地域包括支援センターに相談できる体制になっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険と安全面を踏まえ玄関において、日中、玄関は押しボタンの自動扉にて対応。天気の良い時等は、時間を決めて開けるようにしている。網戸にする際も段差がある為、転倒防止にて開けないうロックしている。ベッド柵において転倒防止の為、家族、本人了解の上使用している。	身体拘束をしないことを利用者家族に宣言しており、職員間でも共有しています。玄関は押しボタンで開けられるようになっており、自分で押して玄関から出られる利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律等、専門知識を学ぶ機会は現在はないが、研修を現在、積極的に取り入れるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各スタッフで個人的に学習を行っている。今後は施設外研修を通じて施設内研修をも行い、学ぶ機会を持つ様に努めて行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明と納得等は、管理者が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等あれば反映するように努めている。また、利用者や家族等が意見、要望を伝え易い様な雰囲気作りを心掛けている。	家族との対話は、利用者の問題点を伝えるのではなく、共に支える視点を大切にして話し合っています。毎月利用者の暮らしぶりを一筆書きで報告し、家族から好評となっています。家族にアンケートをとり、サービス改善につなげる取り組みも行っています。各ユニットの玄関には、利用者の暮らしぶりがわかるデジタルフォトフレームが置かれ、面会に見える家族に喜んでもらっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば、管理者に常に聞いてもらっている。	管理者は職員が話しやすい雰囲気作りを心掛け、実際日常的に意見が積極的にあがっています。正式な個別面談は年1回行いますが、日々の関係作りを大切にしています。	外部研修への参加や内部研修の実施を今後、取り組んでいく予定をたてています。今後は、職員のさらなる主体性を発揮するためにも、研修を実施しケアの向上などにつなげてはいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はよくホームを訪れ、入居者はもちろん、管理者や職員に話しかけ、コミュニケーションをとっている。環境などの整備に力を入れ、より働きやすい職場を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などへの参加に取り組んでいるが、職員の確保が困難であり、参加できない状態が続いたが、現在職員配置に少し余裕ができたため、今後実行していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム同士で連絡会を立ち上げたため、そこに管理者が参加している。連絡会では勉強会や交流会などを通し、個々のホームの問題解決や制度改正の把握などを行なっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時や入所時には、本人の話をゆっくり時間をかけ傾聴する事によりニーズを把握し、本人の精神面での安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時をはじめ面会時には、家族とゆっくり時間をかけ話す事により要望を聴き取り、不安の軽減を図り、信頼関係に繋げて行ける様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接後のアセスメントに基づいて必要なサービスを見極め、最適な支援の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決して一方的ではなく、自立を念頭においた関わりを心掛けながら、共に行う事により、時には職員が教えられる事もあり、本人の出来る事を増やして行ける様な支え合いの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が安心して暮らして行ける様、家族との連絡を密に取りながら信頼関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人を知る事によりニーズを把握し、要望に応じて行ける様努めている。	利用者に自宅で生活していたときの友人が訪問してくれたり、馴染みの百貨店への買い物やコンサート行ったりするなど、利用者がこれまで大切にしてきた生活の継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の生活の中で、利用者同士が円滑な関わりを持てる様、職員が介入と見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後の相談等、現状はない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	丁寧な関わり方に心掛ける事により、個人の意向の把握に努めている。又ケアカンファレンス等で職員それぞれが持っている情報を共有し合い、検討している。	利用者一人ひとりの希望や意見を聞き取り、家族からも情報を得て、日々の支援を行っています。アセスメントや介護計画の様式も、一人ひとりの思いや希望を把握できるように工夫しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート作成時に職員間で情報を共有し合い、把握に努めている。その他、必要に応じて本人や家族から伺う事も有る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を通じて様子観察を行い、把握に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>モニタリング等で本人や家族の意見を伺いながら、定期的又は必要応じたケアカンファレンス等を行い、意見やアイデアを出し合い、計画の作成とサービスに反映させている。</p>	<p>利用者一人ひとりの希望や意見を聞き取り、家族からも情報を得て、サービス担当者会議で検討し、介護計画を作成しています。介護計画の見直しは通常6ヶ月毎に行われており、状況の変化があれば随時、ケース検討会議やモニタリングにより見直しをしています。</p>	<p>毎日の支援の中で把握した気づきや発見は記録に残していますが、その気づきを職員間で共有し、今後介護計画に反映することが期待されます。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録や支援記録に基づいた職員間の引継ぎ等で情報の共有を行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族との関わりや様子観察を行うことにより変化に気づき、柔軟な対応やサービスの提供に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>インフォーマルなサービスの情報収集に努め、本人らしい暮らしを援助出来る様心掛ける。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意向を尊重しながら適切な医療に結びつけられる様、支援して行く。	定期的にホームへ往診がありますが、本人や家族が希望するかかりつけ医に受診できる体制になっています。24時間医療との連携体制があり、緊急時にも対応できるようになっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問時、日常の状態を細かく報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院から説明、相談の要請があれば病院側に行くようにし、施設側も利用者の様子を見に行った際、状況等尋ねるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族等とは話し合いを行い、理解に努めている。	「重度化された場合への対応に係る指針」を作成し、家族に説明しています。完全な看取りの方針はありませんが、極力ホームでの生活を支援しています。末期がんの利用者がホームで生活されたケースもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議等、定期的とはいえないが行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の非難訓練は行っているが、訓練等、地域は参加していない。	災害時対応マニュアルを作成し、避難訓練も年2回実施しています。非常口はいつでも開けられる状態になっています。火災等の緊急時は地域から協力してもらえ関係作りを日常的に心がけています。非常用食品も準備しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を知る事により、その方に合わせた声かけと対応を心掛けている。	個人情報に関する規程を定め、職員の採用時には個人情報の秘密保持についての誓約をしています。利用者に対しての言葉遣いは丁寧で、相手を尊重した言葉かけや対応を行っています。	今後は、個人情報の保護をはじめ、テーマを決めて計画的に研修を実施することが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分の意思を表現しやすい様な雰囲気作りを工夫する事により、環境の整備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援しつつも全てではなく、職員本位になっている事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみにおいては、毎日その都度行い、おしゃれにおいては、マニキュア程度は多く行っているが、化粧品は外出や行事等のみ行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員や出来る方と一緒にいう事で、楽しみながら行ってもらう。	朝食、夕食はホームで職員と利用者が一緒に調理しています。「少しでも美味しいものを」と、食材にこだわり米は富山県から取り寄せています。地域から野菜の差し入れがある時は、おかずが一品多くなることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の摂取状況に応じた食事提供を行うと共に、食事、水分量のチェックを行い、摂取表に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアと、週1回の歯科往診時にて口腔状態の把握とチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を促しているが、まだまだ失禁やおむつ、リハビリパンツの使用があるのが現状である。	排泄パターンをつかみ、できるだけトイレで排泄していただくよう支援しています。おむつからのトイレでの排泄、おむつからポータブルトイレへ等、少しでも自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を行うぐらいで他は取り組めていない。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設のスケジュールと職員本位で行っている。	利用者の希望があれば、毎日でも入浴できる体制が整っています。入ることを嫌がる利用者にも無理強いせず、嫌がる理由を考え安心して入っていただけるよう工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて、入床のタイミングを図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てにおいて理解はできていないが、症状の変化の確認は努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好みや趣好を把握、提供し、都度要望を確認しながら外出等の気分転換を支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	シフトの人数配置上、外に出られない時もあるが、外に出られる時は、なるべく外に出るよう努めている。希望はなかなか挙がらないので、スタッフで場所をピックアップする事あり。	利用者の希望にそって、散歩の支援をしています。帰宅願望の強い方にも散歩をしていただいています。日常的に近くのスーパーマーケットへ出かけることも多く、最近ではみかんを買いに行くこともあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設預かりで、外に出るときもスタッフが預かるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば支援するが、現状ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごして頂けるように努めている。	2階のリビングには天窓がありとても明るく、リビング横には和室がありホームでコタツを置き、横になることができます。各ユニットに玄関があり家族等が訪問しやすくなっています。デジタルフォトフレームを置き、利用者の様子が写されています。リビングにはソファが置かれ、隣家の梅が咲いているのを見ることができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、リビング席、ソファと活用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのもの、置けるものは置いて頂いている。	利用者の居室は、ゆったりとした広さがあり、使い慣れた鏡台やタンスが置かれています。中にはピンクを基調としたインテリアを置く部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」を理解し、無理強いしない程度で行ってもらっている。		